

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立山崎高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長、主幹教諭（生徒部主任兼務） 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任兼務）、主幹教諭（生徒部主任兼務）、主任教諭（進路部主任兼務） 計6名
- (4) 協議委員の構成
山崎団地自治会長、町田市青少年健全育成忠生第五地区委員会会長、町田市役所、町田警察署、町田消防署忠生出張所長、東京家政学院大学教授、桜美林大学教授、町田市立中学校校長会長、山崎高等学校同窓会会長、山崎高等学校PTA会長 計10名

2 令和5年度学校運営連絡協議会・評価委員会・防災委員会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年6月16日（金） 内部委員6名、協議委員9名
令和5年度学校経営計画、令和4年度学校経営報告、令和5年度各分掌・学年の取組について
第2回 令和5年11月2日（木） 内部委員6名、協議委員8名
校長報告、各分掌・各学年による中間報告
近況報告（行事、学校指定品、自転車のヘルメット着用、授業、探究学習）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケートの内容検討、協議今年度の防災教育の取組について
第3回 令和6年2月5日（月） 内部委員6名、協議委員6名
令和5年度学校評価アンケートの集計結果について
1年間の総括、次年度への提言
今年度の防災教育の報告

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：540人 回収：540人 回収率：97%
 - ・12月 保護者全員 対象：540人 回収：540人 回収率：58%
 - ・12月 教職員 対象：32人 回収：32人 回収率：100%
 - ・12月 地域・住民 対象：16人 回収：11人 回収率：69%
- (3) 主な評価項目
学校運営、授業・教育課程、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、学校生活、広報活動、施設・設備、ワークライフバランス等
- (4) 評価結果の概要・分析・考察
 - ・「授業の満足度」80%、「習熟度別授業の満足度」74%と、ともに生徒の多くが満足していると回答している。一方で、「生徒の家庭学習の時間」は平日・休日とも40%以上の生徒が0時間と回答しており、学校全体で家庭学習の実施に取り組んでいく必要がある。
 - ・「進路指導は充実している」生徒76%、保護者75%、「個別の進路相談に適切に応じている」は生徒84%、保護者82%と高い回答率である。
 - ・「授業規律」「学校のルールやマナーを守っている」については、生徒、保護者、教職員ともに80%以上の回答であるが、「通学のルールやマナーが守られている」「SNSや情報モラルが守られている」はいずれも、生徒は80%以上の回答をしているのに対して、教職員との意識のずれが見受けられる。また、地域から自転車マナーに関しての意見が出ているので、指導を徹底していきたい。
 - ・「山高に入学して（させて）良かった」及び「充実した高校生活を送っている」は、生徒が72%、79%、保護者が87%、84%といずれも昨年度を上回る高い回答であった。
 - ・「学校は生徒や保護者からの連絡や相談に適切に対応している」は、生徒81%、保護者94%であり、昨年度を上回っている。
 - ・「学校の施設や設備に満足しているか」は生徒63%、保護者79%であった。校内美化の取組みを評価されて昨年度よりは高くなっていると思われるが、一層、校内美化に力点を置くことが必要である。

(5) 自由意見（生徒・保護者からの否定的意見及び要望、地域の方からの御意見）

（生徒から）

- ・校則の改新をしてほしい。
- ・学校の備品の中でも「古くて使えないもの」「壊れており修理もできないもの」がスペースをとっている、捨てられるのなら捨ててほしいです。
- ・先生が校則を理解してないことがある。授業中の私語に対して注意しない先生が一定数いる。テスト中に無駄口を話してテストの邪魔をする先生がいる。
- ・授業がつまらない、進みが遅い。習熟度でクラスを分けていても、普通のクラスとの違いが分からない。
- ・1年生の服装のマナーが悪いと思う。
- ・男子更衣室が汚い。
- ・トイレがたびたび汚いと思います。

（保護者から）

- ・わからないところを先生に聞ける時間が放課後自主学习としてあればはかどります。
- ・授業公開日に訪問しても教室の扉が閉まっている為、授業を見ることが出来ません。

（地域の方から）

- ・校長先生をはじめ、先生方が地域貢献の為、山崎団地自治会と関わって下さり、心強く思っております。生徒さんもしろいろな難問題に取り組んで頂き、私達、自治会の者も、勉強していかねばなりません。高齢化が進み、小さな力ですが、若い方の力をかりて、すすんでいきたいと思ひます。
- ・山崎サミットを通して、より高校の事を知っていこうと思ひます。
- ・もう少し物を大切に、そして考えて使ひましよう、と思ひます。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・様々な立場から、本校の教育活動に対する評価
- ・地域の方々の本校に対する期待の大きさを知ることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ・本校の学校改革に対する評価と地域からの期待について
- ・夜間外出に対する、保護者による意識の違いについて
- ・授業の改善について
- ・家庭学習の取り組みについて

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学習指導・進路実現についての取組

学習面に対する要望が生徒、保護者ともに多くあり、学力の向上と進路実現を強化していく必要がある。ただ一方で、生徒の家庭学習時間はあまり伸びておらず個人差が大きい。

基礎・基本をわからせる授業も当然大切であるが、それ以上に生徒が学びたくなるような授業の工夫が求められる。このような授業を行うことにより、家庭での学習時間の増加を目指していく。また、生徒の学力向上のために模擬試験の分析や個人面接の充実を図っていく必要がある。また、生徒が主体的に学習に取組める環境を設定し、検定の取得などにも積極的に取り組ませていく。

(2) 行事・部活動についての取組

学校行事や部活動の充実に対する要望が多くあった。クラス減により、部活動の参加者が減少している事実を改めることは困難であるため、設置部活動の数の見直しを図り、大会参加ができるやりの持てる部活動を増やしていく。また、部活動に参加できない生徒のために委員会活動の充実を図り、全生徒がいずれかの委員会に所属できるように設置数を増やしていく。

(3) 学校の決まりについての取組

学校の決まりに関しては、毎年見直しを実施しているが、教員間での指導のばらつきや生徒間での意識の差がある。一律の指導というよりも教科ごとに授業への取り組みの状況が異なることはありうるという観点から教科ごとに授業規律を徹底するための決まりをつくらせ、教員間での指導のばらつきや生徒間での意識の差を埋めていく。

(4) ユネスコスクールとしての取組

ユネスコスクールとしての取り組みを本校の教育活動の根幹に据え、全教科でESDの取り組みを推進する。また、総合的な探究の時間（人間と社会）における地域交流や国際交流等を通じて、平和で持続可能な社会の実現を目指すための活動を行っていく。さらに、近隣の幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を強化し、外部人材の活用も積極的に行っていく。

6 その他

- ・保護者のアンケート回収率を高めるため、アンケートの配布時期と回収の方法の検討が必要である。